

キャラクター名 王鷹 龍馬	プレイヤー名
------------------	--------

シンドローム	ブラックドッグ ハヌマーン		ワークス	不良高校生	カヴァー	”頭” (ヘッド)
	オプション		年齢	18	性別	漢
覚醒	死	衝動	解放	初期侵食率	36	%
出自	疎まれた子	経験	犯罪	邂逅	アルフレッド・J・コードウェル	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	3	1	0			4	行動値	3
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:	4		芸術:			知識:			情報:裏社会	4	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
フォールンヴィークル	運転	4r+4		13		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
フォールンヴィークル		13		-3	全力移動300m、あらゆる判定+1D

所持品	合計装甲:	13	合計回避:	0
-----	-------	----	-------	---

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
[[11] 秘密兵器/トイボックス	P	N		
”徒怒露鬼”	P 連帯感	N 無関心		
”轟連隊”	P 友情	N 疎外感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	2	残り財産P:	
--------	---	--------	--

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
鋼の馬	3	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: 判定+LvD								
加速装置	3	2	セット	至近	自身	自動	-	
効果: 行動値+Lv×4								
一閃	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: メジャー時全力移動可能								
フルインストール	3	5	イニシアチブ	至近	自身	自動	100%	
効果: ラウンド間判定+Lv×3D、1回/1S								
リミットリリース	1	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-1								
コンセントレイト:ブラックドッグ	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-Lv								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

古き良き暴走族の”魂”を受け継ぎ、仁義も矜持もないまま暴力を振りかざす「半グレ集団」への”正義の制裁”を目的として設立された”轟連隊”の初代総長にして名誉隊長である、”漢”の中の”漢”。幼い頃から曲がったことが嫌いで、何が何でも自分の信じた道を突き進むことを良しとする性格であり、場を丸く収めるためならば公に媚び諂い自分を曲げる常識とやらを持ち合わせていた両親とは折り合いが悪かった。頭の出来も悪ければ愛想も悪かったため、友人に恵まれたわけではないが、その生き様に焦がれる舎弟がぼつぼつと彼の背中を追うようになる。そんななか、己の無力さ凡俗さを世間に責任転嫁し、ただできるからという動機だけでカタギを襲う半グレ集団というものが世の中には跋扈しているということに気づく。この振る舞いに腸を煮えくり返した彼は、非オーヴァードながらパッドを片手に街へ繰り出して、不屈き者達の行いを正しに行くようになった。これが”轟連隊”の始まりである。彼が率いる家族たち、そして彼が相手取った半グレ集団の中にはオーヴァードもいたのかもしれないが、そんなことはお構いなしに彼は二年半の間、喧嘩に明け暮れる。そんな彼も、就職や進学を見据えて、高3の夏に轟連隊からの引退を告げる。いつしか千を超える隊員で構成されていた”轟連隊”最後の集会は、彼にとって忘れられない一夜となり、二年の付き合いにもなった愛車である”徒怒露鬼”に跨って帰る夜道に彼は事故って非オーヴァードとしての一生を終える。

崖下にて目を覚ました彼は、100mもの高さからガードレールを突き破って空に飛び出したにもかかわらず自分と自分の愛車が無傷であることに気づき、九死に一生を得たことに気づく。これを天命とし、彼はプロレーサーを目指すことを志しかけるが、すぐに自分の身に起こったことと世界の真実について知らされることになる。これまで彼が戦ってきた”半グレ集団”というのは、FHの資金集めのため半ば洗脳され”捨て駒扱い”されていた世間知らずの若者たちであったこと。彼の血を浴びてオーヴァードに覚醒した”徒怒露鬼”はそんなそこのユニークアイテムすら敵ではない”強力な道具”に生まれ変わったこと。その”薄汚れたバイク”にとある生物学者が興味を示したため、「ただのオーヴァード」に過ぎない彼はお役御免だということ。そんな世迷言を宣い襲いかかってきたFHエージェント達を彼と彼の相棒は轢き飛ばした。これまで以上にお互いがお互いを信頼し、使いこなしつつあった彼らを止められるものは、もうどこにもいなかった。

現在の彼は、己の家族である”轟連隊”を影ながら守り、FHに操られている若者たちを解放するために独自に日本を駆け巡っている。その過程でUGNと道が変わることがあれど、その志を同じくはしていない。その理由は不明であるが、おそらく彼の転機となったFHエージェント襲撃の際に彼らが宣った、UGNの創立者にしていまはその敵勢組織であるFHに属する生物学者、アルフレッド・J・コードウェルに思うところがあるからだろう。彼との邂逅は未だ果たせていないが、今日も今日とて自分の正義を信じ、彼は相棒とともに世界を駆け抜ける。